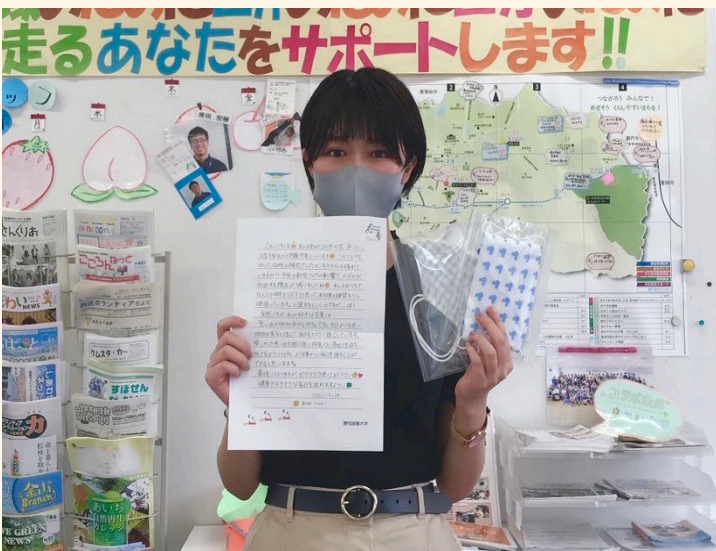
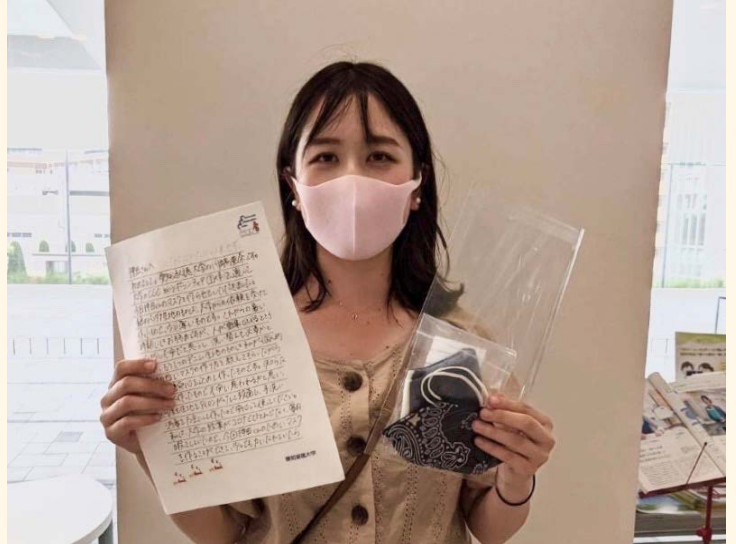


# コラボ通信

 第53号  
2021年3月18日

CCC（コミュニティ・コラボレーションセンター）とは・・・

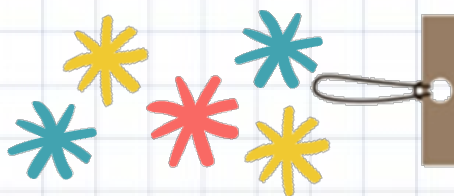
学生が学外で生きた学びを得られるように支援する教育機関です。地域、社会、世界の人々と出会い、協働することで、大学で学んだ知識を活かしたものにしていけるようサポートしています。これまでに、多くの学生がCCCを通して地域に飛び出し、NPOや市民団体、企業などと連携して共に活動しています。CCCに1度足を運んでみてください☆



コロナ禍でもできるマスク作りやオンラインボランティア、イベントをおこないました！世界中で大流行の新型コロナウイルス…当たり前の日常が制約され閉塞感や孤独感を感じる中、少しでも誰かの”ぬくもり”を感じることができるようにと工夫をこらし、一歩ずつできることを見つけていきました。より「ひと」と「ひと」との繋がりのあたたかさを感じる時間でした。







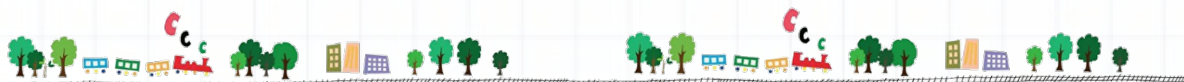
# コロナ禍でもできたこと～み

## ～はじめに～

愛知淑徳大学では、政令にもとづき、随時新型コロナウイルス対策を実施してきました。緊急事態宣言が発令されると、大学への入構禁止となり、授業もオンライン・オンデマンドになりました。人と会いたくても会えない状況で、閉塞感のある日々でした。それでも、後期になると対面授業が少しずつ再開され、人と会う、共感しあうことで安心を感じると同時に、改めて外に目を向け、自分たちにもできることを探し活動してきました。本号では、コロナ禍の大学の動きと、その中で学生がどのような活動をしてきたかをご紹介します。

## ～1年間の大学の動き～

|                                               |                                |
|-----------------------------------------------|--------------------------------|
| 2月21日／学外での対面ボランティア活動が全面禁止措置となる<br>※現在も引き続き施行中 | 5月11日／前期授業がオンラインにてスタートする       |
| 4月10日／愛知県が緊急事態宣言を発令                           | 5月25日／対面授業が一部再開                |
| 4月20日／緊急事態宣言発令中につき、大学への入構禁止                   | 8月1日／新型コロナ感染拡大のため、再度大学への入構禁止   |
|                                               | 9月25日／オンライン・オンデマンド・一部対面で後期授業開始 |



## 1 自宅で学ぼう郵便先生！

東日本大震災で愛知県に避難された子どもたち(ご家族)に対して、心が癒される居場所をつくることを目的としています。現在は、手作りマスクの配布や、郵送のやりとりにて学習支援をする郵便先生の活動をおこなっています。

この活動を通して、人の心から生まれる“想い”には、人と人をつなぎ、お互いを助け合える力があることを学びました。対面活動が難しいコロナ禍で今の自分にできることは何か、そしてその先で被災者の方々からいただいた「ありがとう」や「助かります」と書かれた手紙。その真っ直ぐな言葉から、大きなつながりを感じました。これからもそのつながりに感謝し、割いてくださった時間・想いを無駄にせず活動していきます。

交流文化学部 伊藤菜々子



## 2 西尾の外国にルーツがある子どもたちへのオンライン日本語支援



コロナウイルスの影響で学校が休校になりました。そのため、外国にルーツをもつ子どもたちは、日本語に触れる機会が減ってしまいました。少しでも日本語に触れる機会を作ることを目的として、オンラインでの日本語支援が始まりました。

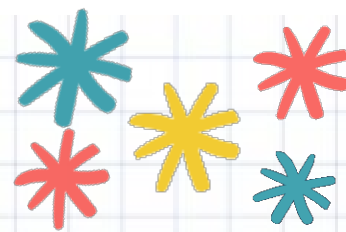
活動が始まった頃は、なかなか子どもたちから話し掛けてくれることは少なかったですが、宿題をしたり、おしゃべりをしたり、宝物を見せあったり、毎日活動をする中でだんだんと子どもたちが積極的に日本語で話してくれるようになりました。

この活動で、少しでも日本語を話すことへの自信に繋がってくれたら嬉しいです。

コロナ禍において子どもたちが、オンラインで私たちと繋がれる時間が少しでも楽しいと思えるようにこれからも活動していきます。

交流文化学部 大久保 菜実

# みんなの力が合わされば！～



## 3 ベトナムの技能実習生へのオンライン日本語教室

私の専攻は英語ですが、日本語教育に興味がありカリキュラムを取っていました。  
徳林寺の技能実習生の方たちは、3月に仕事の契約を終えてベトナムへ帰国する予定でした。しかし、コロナウイルスの影響で出国できず、住む場所も失っていたところ徳林寺の住職さんが迎え入れて下さったそうです。活動に参加し始めて、日本にいる外国の人たち（特に技能実習生）と日本の人たちが仕事以外に関わる機会が本当に少ない事を知りました。相手をよく知れば、きっと友好な関係を築けるのに、その機会がない事を残念に思いました。ベトナムの皆さんは、明るくて、フレンドリーで、毎週交流の時間を楽しみにして下さり、私たち学生を先生と呼んでくれました。皆さんが帰国されると聞いて、とても嬉しく思う反面、寂しくも感じました。



交流文化学部 水谷麻美



## 4 他大学生の活動を聞こう！



国内外でハンセン病の啓発活動をおこなっている「国際ボランティア団体FIWC東海」に所属しており、この活動や

他の大学で活躍する大学生の声を届けられればと思い企画しました。FIWC東海では、啓発活動を通じてハンセン病の知識を深めたり、地域で活動報告会を開催しています。この活動を通じて、「いろんな国や地域に友人がたくさんできたこと」「コミュニケーション力が身についたこと」「ボランティアは相手を助ける場ではなく、自分自身が学ぶ場であること」を学びました。  
ボランティアは過酷な印象があると思いますが、楽しくて、学びが多い場だということが皆さんに伝われば嬉しいです。

グローバルコミュニケーション学部 松浦実咲



## 5 愛知医大とのコラボ事業

これまで子ども食堂の活動に参加してきて、子ども食堂とは「さまざまな人が集まり、人の温かさを感じられる集いの場」だと感じています。そのためコロナによりこの場所がなくなり、容易に人に会えなくなった今、子ども食堂に参加することで人とのつながりや温かさを感じていたみんなはどうしているのかととても気になっていました。  
そんな中、今回の活動に参加しないかと声をかけていただきました。この活動では、子どもたちに楽しく学べるキットを届けることで、少しでも「自分たちのことを気にしている人がいる」と人とのつながりの温かさを感じてもらえるようにとおこなっていて、ずっと気になっていた子どもたちに届けられる活動ができることが嬉しいと思い参加しました。  
参加してくれる子どもたちには、子ども食堂に集まることは難しくても、キットを届けることで「楽しんでもらいたい、元気でいてもらいたい」という私たちの思いを感じてもらえたら嬉しいです。



社会福祉貢献学部 驛田彩音



コロナ禍の状況をのぞいてみよう

## NPO団体さんへ インタビュー

コロナ禍で大変なときも、歩みを止めず活動されているNPO団体さん。コロナ禍で、どんな活動をされてきているのか、様子をみてみましょう。

学生から、いつもお世話になっている3つの団体さんへインタビューをおこないました。

その内容を下記にまとめたので、読んでみてください！



NPO法人 楽歩  
副理事長  
大原由恵さん

NPO法人 楽歩さんは障がい者の方々に、一般の人と同じような仕事のできる環境を提供しているNPO団体で、長久手市を中心に活動しています。2008年の11月に設立され、現在68人の職員がいます。また、年間約150人の人が楽歩さんの主催するボランティアに参加しています。



普段の活動内容と新型コロナウイルスの影響のもとでの活動内容に変化はありましたか？

新型コロナウイルスの影響で、普段おこなっていたイベント出展の依頼が3月あたりから少なくなりました。また、カフェを閉じなければならませんでした。しかし、動物保護センターや犬山病院の清掃の仕事など、今まで通りおこなう仕事もありました。



新型コロナウイルスの影響で困ったことは何ですか？

図書館のカフェや保育園の弁当がなくなり、仕事が減っていきななかで、働く人たちの給料を考えなければならなかったことです。また、障がい者の方々にとって毎日のルーティーンは大切なものであり、このルーティーンが崩れることは障がい者の方々にリスクを与えることにつながるので仕事を止めるわけにはいかなかったことです。



NPO法人 WAFCA  
熊澤 友紀子さん

1999年に(株)デンソーの創立50周年記念の社会貢献事業の一環で設立されました。同12月にNPO法人化され、「車いすを通じて、アジアの国々のバリアフリー社会実現に寄与すること」を目的に、現在はタイ、インドネシア、中国の障がいがある子どもたちに車いすを届けています。ただ、届けるだけではなく、使用中に壊れた時にその国の部品で修理できるよう、現地の車いすを選び、その子の身体に合わせて贈っています。



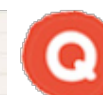
コロナ禍において工夫したことは何ですか？

外でのお弁当の販売を増やしました。また、今の現状を市役所に伝えたことで、役所の中でお弁当を売ることができるようになりました。また、弁当の予約注文の規模を広げたり、高齢者施設の厨房の仕事を1事業所から2事業所に増やしました。従業員の方々の給料が滞らないように工夫しました。



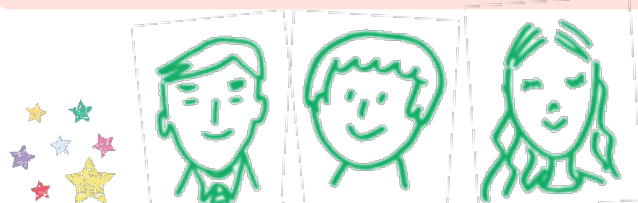
楽歩さんの、障がい者の方々が仕事をするに対する思いが伝わってきました。仕事の1つとして病院の清掃がりましたが、コロナウイルスの影響を気にしてこの清掃の仕事を休む人は、1人もいなかったそうです。楽歩さんに所属する全員が団結してコロナウイルスを切り抜けようとしていることがとても良く伝わってきました。「コロナ禍で、支えられる側から支える側に变化した。」という言葉がとても印象的で、そんな風に考えてお仕事をされていてとても素敵だなと思いました。最初に述べたとおり楽歩さんは、障がい者の方々が一般の方々と同じ仕事を出来る環境を提供し活動をされています。障がい者の方々を特別視せず歩み寄る考え方がこれから多くの方々に浸透していって欲しいと思いました。

交流文化学部2年 糟谷夏歩



WAFCAさんがコロナ禍で大変だったことは？

活動場所が海外のため、日本にいるスタッフが現地に行けない状態だったことです。海外との行き来を完全に閉ざされて、現地に行けない状態では、どうやって支援していったらいいのとかかなり悩みました。ただ、タイ、インドネシアに事務所があり、それぞれの国の現地スタッフはそこで活動を続けていける状態ではありました。

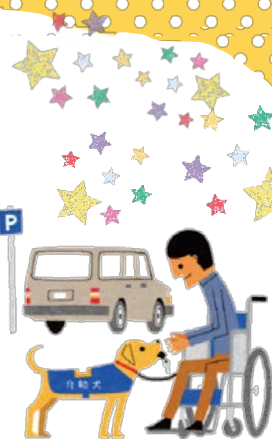






社会福祉法人日本介助犬協会  
磯貝 歩美さん

平成16年3月18日に社会福祉法人となり、同年4月1日に事業として始動しました。愛知県長久手市には、日本初の介助犬専門の訓練施設として「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～」があります。現在は、愛知県長久手市と神奈川県横浜市の2か所を拠点として、職員30人の方々が介助犬のトレーニングをはじめ、介助犬と使用者の合同訓練に励んでいます。また、より多くの人に知ってもらうための講演やイベント開催もおこなっています。



新型コロナウイルスの影響で困ったことは何ですか？

コロナ禍で工夫したことは何ですか？

一頭の介助犬の育成費用には約300万円かかっており、介助犬使用者へ貸与をおこなうため、その費用の9割以上を支援者からの寄付や募金やイベント・講演のご寄付、グッズ販売でまかなっています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で普及啓発活動が難しい状況になりました。また、介助犬使用者となる手足に障がいのある方は基礎疾患をお持ちの方が多く、介助犬と使用者が直接会う合同訓練が難しく困難となりました。それに伴い、肢体不自由のある方へ介助犬について紹介する機会が減り、介助犬希望者を対象とした介助犬体験会の開催も難しくなりました。

オンラインでの見学会や講演、動画提供にて介助犬普及啓発活動をおこない、訓練施設の案内や介助犬の概要を伝えています。介助犬を希望される肢体不自由者に対しても、オンライン体験会や相談会をおこない、正しい情報の提供をおこなっています。



感想

介助犬は生まれてから、たくさんの人の支えと愛情をもらい、介助犬なり、なった後でも大事にされていることを実感しました。介助犬たちの幸せを常に考え、一頭の介助犬と向き合い、介助犬の育成に励み続ける多くの方々がいることがよくわかりました。介助犬のことを知ることで、介助犬がパートナーになるきっかけ、周りの人の介助犬への理解につながってほしいと思います。コロナで活動が困難ではありますが、これからの社会にも欠かせない役割だと思うのでSNSの活用やクラウドファンディングなどの利用や工夫で、より多くの人々が救われることを心から応援しています。 交流文化学部 3年 井戸田 陽和



コロナ禍で工夫したことは何ですか？

現地のコロナの現状も大変な状態です。障がいのある子どもたちと家族の生活を支えるため、「新型コロナ対策障がい児緊急支援」の募金活動をおこないました。2,032,000円のお金が集まり、タイ、インドネシアに届けることができました。また、普段はタイやインドネシアをメインに目を向けていましたが国内に目を向けられる時間ができたので、国内で啓発活動としてオンライン勉強会や交流会をおこなっています。そして、大学生向けにオンラインのインターンも実施することになり、日本全国から問い合わせがあり、遠方の学生さんも参加しています。WAFCOAで募集したわけではなく、このコロナ禍で留学などにいけない学生さんから問い合わせがあり、ZOOMインターン個別説明会をおこないました。そこで興味を持ってくれた学生さんと週1回のペースでオンラインで打合せながら、希望やスキルに合わせて業務を決めておこなっています。今学期のインターン参加者はインドネシアに留学経験があるので、インドネシアに関連する業務や翻訳業務に携わってもらっています。

感想

私はタイに住んでいた時期がありましたが、このようなNPOがあることは当時、知りませんでした。大学生になった今、過ごしたことがあるタイの子どもたちの支援をしたいとも思いましたし、スタディツアーでタイに行き、また違うタイを発見したいと思いました。

交流文化学部1年 山本羽奈





# 567ランチャーズ

No.

コロナ禍に負けないように私たち大学生も走っています！という意味を込めてサイトを作成しました。コロナ禍の大学生の「今」を知っていただければ。大学生も流れる社会の中でいろいろと考えながら、日々過ごしています。みなさんにどうか伝わりますように☆

「嫌なことは後回し」という性格を改めて考えさせられる期間でした。惑わすものが多い家でいかに自分を奮い立たせるか、切り替えができるかというのを試された気がします。



交流文化学部3年  
三浦真梨乃



創造表現学部4年  
川口紗奈

コロナ禍で長い期間、解決もSOSも出来ず、立ち止まる自分や他者を認識しました。自分を支えてくれた他者や、支援に関わった他者から、人のありがたみや支え合える力を感じています。最後は人なんだな。



## STAY HOME期間中だからこそ、良かったことは何ですか？



## オンライン授業、ホントのところ、どうなの？







## コロナ禍の就活こうしてました！

コロナ禍での就活は、学校に行けず、誰かに相談できる機会が少なくなると思います。就活生同士で話す事は難しいかもしれませんが、私は就活を終えた友人に面接の経験を聞いたり、エントリーシートの添削をお願いしたりしていました！



交流文化学部4年

水谷麻美



グローバルコミュニケーション学部4年

松浦実咲

だんだんコロナ感染者が増えるにつれ、合同説明会、インターンが中止になっていきました。そんな中でも説明会を開催して下さる所には、なるべく足を運び、パンフレットだけでは知れない情報を知るために動いていました！

## ✕ コロナ期間中、辛かったことや大変だったことは？



## □ Go to どう思う？使った？





# オンライン新歓を開催いたしました！

6月22日～7月13日の計10日間で、両キャンパスにて「オンライン新入生歓迎会」がおこなわれました！

例年であれば、毎年4月に新入生に向けて、クラブ・同友会・CCC学生団体を紹介し、新入生の入学を祝って「新入生歓迎フェスティバル」をおこなうのですが、今年はコロナウィルスの影響により中止になってしまいました。そこで、「新入生の力になりたい！」と立ち上がった大学祭実行委員会とコミュニティ・コラボレーションセンター（CCC）の学生スタッフが手を取り合い、ビデオ通話アプリを活用した「オンライン新入生歓迎会」を企画・運営しました。

開催期間中は、全部で82の団体の先輩たちが、団体の活動内容や魅力についてプレゼンテーションをおこないました。新入生は各日30人以上し、中には「オンライン新歓」をきっかけに、入部した学生さんもいました。



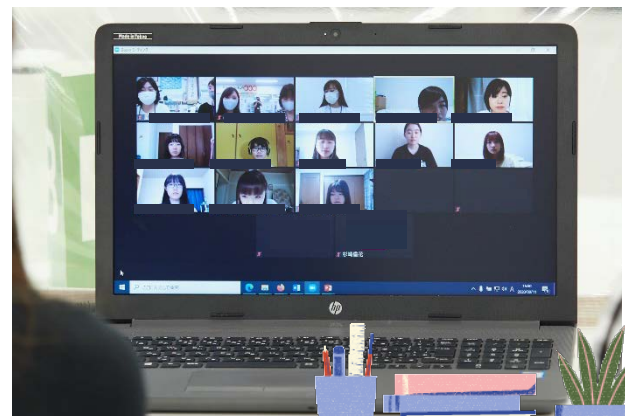
入学式もなくなって、授業の多くがオンライン・オンデマンド授業でした。少人数の基礎演習の授業で、友達とはできるけど、大学生活を送っている実感が薄かったです。サークルなどが個別にSNSで情報発信はしていたけど、大学公認のオンライン新歓で先輩からまとまった情報を得ることができて、助かりました。今は、外国人の子どもを支援するボランティア団体のアミーゴに入っていて、本格的に活動が始めるのが楽しみです。

学生さん  
Voice

参加してくれた交流文化学部1年山本羽奈さん

## 好評に答えて… 第2回目オンライン新歓を開催@長久手キャンパス

6月～7月におこなわれた「オンライン新歓」が好評だったため、第2回目として「オンライン新歓」を9月11日・14日におこないました。1年生から「まだ学校に一度も行ったことがない…」「友達ができない…」「後期の履修もわからない…」などの不安の声があったことをうけ、学部ごとに参加時間をわけて開催しました。先輩たちによる学生団体の紹介や、オススメ授業など、学部ならではの質問に、オンライン上で笑い声が飛び交いました。1年生の中には、画面上で連絡先を交換する姿もあり、楽しかったという感想が聞けました。







学生さんの要望に応じて…密にならないように…

## 対面活動も少しずつ再開しています！

9月になり、対面授業が増えてきたことに伴い、CCCも学生さんの要望に応じて、3密を避け、十分な対策をとり、対面での活動を再開しました。その活動の一部をご紹介します。

### みんなでピニャータを作ろう！

児童養護施設やひとり親家庭の子どもたちに向けて、クリスマスイベントで使うピニャータを作りをおこないました。子どもたちに直接手渡しすることはできないけれど、どんなピニャータなら喜んでくれるのか、ワクワクしながら作りました。

大学生になって、色々なことに挑戦したいと思い、その中にボランティア活動も含まれていました。本当は学外で対面のボランティアをしてみたいけど、このご時世なので、学内でできる楽しそうなボランティアから始めてみようと思いました。心理学部なので児童養護施設については既に学んでいて知識はありましたが、CCCでお話を伺うと、元気いっぱいな子どもたちが多いとのことだったので、自分のイメージと違って驚きました。会いに行ってみたいなと思いました。初めてCCCで活動してみて、交友関係も広がりそうだし、ボランティア情報も多くもらえそうだし、何より楽しかったので、参加してみて良かったなと思いました。作ったピニャータで、子どもたちに喜んでてもらえているといいなと思います。

心理学部 1年 S.H さん



### まなびーの「SONYさんの社会貢献をまなぼう」

自分の将来や、活動を考えるきっかけにしてもらおうと、CCCまなび月間「まなびーの」を開催しました。その一つとして、環境活動に力を入れているソニーグローバルマニュファクチャリング＆オペレーションズ(株)の加藤様をお呼びして、「SONYの森」のお話を聞きながら、環境についてみんなで考えました。



私が受けて思ったことは、環境活動にとっても力を入れていて、企業の方がそのような活動をしていることを知らなかったですし、環境に優しい活動をたくさんされて、とても良い企業なんだと分かりました！話をしてくださった加藤さんという方もとても面白くて、最後まですごく楽しかったです！

人間情報学部 3年 犬塚葉月 さん

### まなびーの「認知症についてまなぼう」

CCCまなび月間「まなびーの」の1つとして、地域の認知症サポートについて講演会を開催しました。認知症カフェ「まちかど保健室」様といきいき支援センター様を講師としてお招きして、認知症の方とご家族を支える取り組みについてお話を聞きました。来年から実際に、淑徳学生による「まちかど保健室」での活動も予定されており、福祉貢献学部の学生さんにとっては、大きな学びになりました。

認知症の人の家族は介護や見守りが大変でしんどさを感じているのだと思っていましたが、「今まではこんな風ではなかったのに、今はこんな風になってしまって悲しい。仕方がないのだけれど…」という葛藤も大きいことが分かりました。まちかど保健室の活動に興味があるので、是非参加したいと思っています。

福祉貢献学部 2年 k.M さん







### 親愛なるCCCへ

ちょうど15年前の2006年9月1日、私はあなたと初めてお会いしました。産声をあげたばかりのあなたをどのように育てようか、その時の私は愛情をもって懸命に考えたの。今日は、その時のこととお話しますね。

愛知県に引っ越してきたばかりの私でしたので、「愛知淑徳大学」が知りたく、卒業生や在校生から「母校」への想いをたくさん聞きまわりました。そこでわかったことは、「誇り」。だからこそ、地域から愛されるCCCに育てたい！と強く思ったの。

大学周辺を歩いていると、2005年に開催された愛・地球博の余韻がまだまだ残っていて、地元から親しまれた博覧会であったことを知りました。何よりも驚いたことが、この博覧会のテーマ「自然の叡智」が根付いていること。そこで、環境を専門にした学部も学内でなかったことから、環境問題からのアプローチで地域とCCCを繋ぎたい、と考えました。

次に取り組んだことは、CCCのロゴづくり。「違いを共に生きる社会をめざし、夢と希望を持って、旅情も楽しみたい！」という願いを込めて考案したの。地域課題の解決に取り組む同志に、立場の差は存在しない。だから、ロゴ入りジャケットをすぐにつくって、これを着ている人を「同じ志をもつCCCスタッフ」としたの。学生も職員も教員も、みんなでこのジャケットを着て出かけたので、純白だったジャケットはどんどん黒く黄ばんでいきましたね。

それから15年、当初の予想をはるかに超え、あなたは地域から愛されるCCCへと見事に成長しました。熱い志をもつカッコイイ学生や大人との出会いをたくさんくれたあなたに、感謝の気持ちを言葉では言い尽くせません。私にとっても、あなたは「誇り」。あなたと過ごした14年間、とても幸せでした、ありがとう。そして、15歳のお誕生日、おめでとう。

初代CCC専任教員

小島祥美（2020年8月末退職）



### 編集 後記

8月から着任しました石塚千夏です。愛知淑徳大学やCCCが大好きなので、これからよろしくをお願いします。コロナ禍で閉塞感のある日々ですが、みんなが知恵をしばり、一つずつできることを重ねていけば、カタチになり、心を通わせ、優しさを感じることができたと思います。コロナに負けず、明るく過ごしていきたいですね。